



日本植物病理学会ニュース 第3号

(1996年2月)

平成7年6月～平成7年11月の学会活動状況

1. 地域部会開催報告

北海道部会：

平成7年度の北海道部会は例年より早めて10月30日(月)と31日(火)の両日に、札幌市の北方圏センター会議室で開催された。参加者は例年とほぼ同じ約100名であった。30日には午後からシンポジウム形式の談話会を行い、「畑作物の病害」というテーマで、テンサイおよびアズキの病害と根圏微生物について5名の方に講演をお願いし、基礎研究から生産現場の課題まで広く活発な論議がなされた。当部会では発足当時から談話会が開催されているが、通算161回となった。夕刻には約70名の参加を得て懇親会が開かれ、なごやかな歓談が8時まで続いて終了した。

翌日の31日には9時15分から一般講演が行われた。講演数は昨年よりやや多い29題で、若手の方々に座長をお願いした。

昼休み後には総会が開催されたが、その前に、当部会員の吉川正明氏が本年6月4日に、谷井昭夫氏が10月11日に逝去されたので、哀悼の意を込め黙とうを行った。総会では庶務、会計報告が承認された。

引き続き一般講演と活発な論議が5時頃まで続き、本年度の部会を成功裡に終了した。(畑谷達児)

東北部会：

平成7年度東北部会は10月26、27日秋田県田沢湖町、田沢湖高原温泉ハイランドホテル山荘で開催された。一般講演(33題)の他に特別講演では、京都府立大学の堀野修氏を迎え「白葉枯病菌(*Xanthomonas campestris* pv. *oryzae*)に対するイネの防御機構」と題して講演をしていただき大会参加者(約100名)に深い感銘を与えた。部会総会では、会務報告、学会・各種談話会の開催状況、学会の近況、東北部会の状況、収支決算等の報告がなされた。特に今回の部会総会では、今後部会のますますの発展のために、県、民間の人の加入の推進を図ることが重要であると提案され、その対策案の作成が東北地域評議員に委ねられた。その後、次期部会長に羽柴が選出され、新部会幹事、平成

8年度開催地としては岩手県(岩手大学)を、また開催地幹事に吉川信幸氏を選出して本年度の部会を終了した。

(羽柴輝良)

関東部会：

関東部会は、平成7年10月6日、昨年に引き続き宇都宮大学大学会館ホールで開催された。9時30分から18時にわたり、48題の講演発表があり、約220名の参加者のもとで熱心な質疑応答が行われた。昼休みに開かれた役員会で部会の運営について協議され、次期(平成8～9年度)部会長に日本大学農獣医学部篠原正行教授が推された。これについては午後の総会で満場一致で承認された。講演終了後、会館内のレストランで、60余名の参加者を得て懇親会が開かれた。最初に宇都宮大学若井田正義名誉教授(永年会員)による、栃木県の農産物を巧みにおり込んだユーモアあふれる歓迎の辞があり、会は一気になごやかな雰囲気包まれた。篠原次期部会長の音頭で乾杯後、遅くまで歓談が続いた。年長会員と若手研究者、あるいは学生との交流も随所にみられ、意義のある一夕となった。少ないスタッフ(奥田、夏秋)で大過なく運営を終えることができたことはひとえに会員各位のご協力の賜であり、ここに改めて感謝するとともに、次期部会運営についても変わらぬご支援をお願いしたい。

なお、評議員選挙区は南北関東地区に2分割されたが、講演会としての関東部会は従来通り行われるのでご承知おきいただきたい。(奥田誠一)

関西部会：

平成7年度関西部会(第48回)は、10月20日(午後1時)～21日大阪府立大学総合情報センターと学術交流会館で開催された。参加者総数は314名で、102題の講演発表が3会場で行われた。演題が多く発表時間が短縮されたが、熱心な発表と活発な討論が行われ、予定時間をオーバーすることがしばしばであった。開催当初の総会の後、部会長講演として井上成信氏が「植物ウイルスの分類の現状」と題して話され、また一般講演に先立ち、特別講演として神戸

大学農学部教授大川秀郎氏が「生物制御にかかわる P450 モノオキシゲナーゼの遺伝子工学」、関西総合環境センター・生物環境研究所所長小川真氏が「きのこ・樹木・寄生から共生へ」の各演題で講演され、非常に興味深く拝聴した。部会初日の夕べには学術交流会館において 185 名が出席して盛大な懇親会が催され、和やかに学会員の交流が深められた。

役員会は 10 月 20 日の 10 時から同学術交流会館で開催され、庶務・会計報告が承認された後、部会会則に基づく選挙の結果、平成 8 年度部会長に一谷多喜郎氏が当選したことについて報告があり了承された。平成 8 年度の開催地として山口大学を、開催委員長に亀谷満朗氏が選出され、さらに部会事務幹事に尾崎武司氏が、開催地幹事に田中秀平氏が推薦された。これらの案件は午後の総会において報告され承認された。
(井上成信)

九州部会：

平成 7 年度九州部会は、九州農業研究会との共催で、9 月 21 日(木)、宮崎市の宮崎県立図書館で行われた。講演題数は 24 題であった。病原別にみると糸状菌 10、細菌 4、ウイルス・ウイロイド 9、線虫 1 課題で終日熱心な発表と討論が行われた。隣接会場で、日本応用動物昆虫学会九州支部の講演会が開催された。両講演会の終了後、会場近くのガーデンベルズ宮崎において、両部会合同の懇親会が盛大に行われた。この合同懇親会は昭和 61 年にスタートし、親睦を深める意味で好評である。翌日、22 日(金)には恒例となっている九州部会シンポジウムが開催された。今年は 20 回目にあたり、佐賀大学名誉教授、九州病害虫防除推進協議会会長野中福次氏に「九州における植物病害研究五十年を省みて」という演題で講演をいただき、他に九州大学農学部古屋成人氏により「非病原性イネもみ枯細菌病菌を用いた土壌伝染性細菌病の生物的防除」、福岡県農業総合試験場果樹苗木分場草野成夫氏により「カンキツウイルスの検出法と樹体内動静：SDV および CTLV について」の演題で発表され、正午盛会裏に終了した。

なお、初日の午後、佐賀市で開催されることになった、平成 8 年度全国大会運営委員会が佐古大会委員長の司会で、大会準備スケジュール等の確認が行われた。

(荒井 啓)

2. 談話会開催報告

植物感染生理談話会：

日本植物病理学会第 31 回植物感染生理談話会は、平成 7 年 7 月 21 日～23 日の日程で、157 名の参加者を迎えて、静岡県浜名郡の地方職員共済施設「浜名荘」において開催された。

今年のテーマは、「植物感染機構の進化を考える」という

ことで、まず、齊藤成也氏(国立遺伝研)と佐藤洋一郎氏(静大農)に分子進化学の基礎と分子進化学的解析の実際についてそれぞれ特別講演していただいた。次に、1)植物病原体の系統進化の具体的解析について、ファイトプラズマ、ウイルス、細菌の事例を難波、岩波、瀧川の各氏に；2)植物病原体の進化に及ぼす環境の影響について、宿主植物との共進化、植物病原体における遺伝子の再配列、環境適応、細菌間の遺伝子伝達等の各具体的解析例をあげながら、秋光、土佐、百町、松本(直)、佐藤(守)の各氏に；3)植物感染の場における植物側の分子進化について、植物病害抵抗性反応における活性酸素の役割、植物防御反応遺伝子の制御、葉緑体の役割の各分野で、道家、山田(哲)、白野(由)の各氏に；それぞれ大変興味深いご研究をご紹介いただき、活発な討議が行われた。特に学生をはじめとした若い研究者の参加が多数あり、ウイルス、細菌、糸状菌、さらには植物といった個々の研究ジャンルを超えて、分子進化を視野にいたれた植物感染の総合的研究に向かう機運を感じることができた。次年度は、山形大農を中心に計画されることが承認された。
(露無慎二)

植物細菌病談話会：

日本植物病理学会第 18 回植物細菌病談話会は、北は青森県から南は沖縄県まで 110 余名の参加者を迎え、11 月 1～2 日に京都市の京大会館で開催された。本談話会は昭和 40 年に第 1 回が東京・西ヶ原の旧農業技術研究所で初めて開催されて以来、今回がちょうど 30 年という節目にあたる。この間、本談話会が京都で開かれたことはなく、今回初めて京都府大・植物病学区のスタッフが本談話会のお世話をした。今回は「植物細菌病の発生生態、防除および分子生物学」という幅広いテーマを設定したためか、国、府県の試験研究所、民間企業および大学の細菌病研究者がほぼ同じ比率で参加された。第 1 日目の特別講演では、北村進一氏(京都府大・農芸化学科)が「*Xanthomonas* 属細菌が生産するザンサン(カンキツ)の構造・物性・機能」について総論的に、わかりやすく話された。次に、芹澤拙夫氏(静岡柑橘試)による「キウイフルーツかいよう病の発生生態」、曳地康史氏(岩手生工研セ)による「イネもみ枯細菌病の発生生態と防除」、小林紀彦氏(国際農研)による「トマト・ナス青枯病の生物防除と総合防除」、竹内妙子氏(千葉農試)による「養液栽培によるトマト青枯病の発生生態と防除」など多方面にわたる貴重な話題の提供がなされた。第 2 日目は加来久敏氏(生物研)らによる「*Pseudomonas solanacearum* に対するタバコ葉維管束組織の抵抗性機構」、露無慎二氏ら(静大農)による「カンキツかいよう病菌の病原性関連遺伝子の解析」、津下誠治氏(京都府大農)による「イネ白葉枯病菌の非病原性遺伝子について」が話された。各氏とも最近の実験結果を示しての話題提供であったので、非常に興

味深く拝聴した。今回は討論時間を15分に設定したため、活発な質疑応答が行われ、かつ討議が十分になされたことは大変有意義であったと思われる。なお、平成9年度、第19回植物細菌病談話会はつくば市の農業生物資源研究所(代表者 加来久敏氏、土屋健一氏)で開かれることが決まった。また、第18回植物細菌病談話会講演要旨集の残部が若干あるので、ご希望の方はご連絡をいただきたい。

(堀野 修)

学会関連各委員からの報告

日本農学会報告

平成7年度第2回運営委員会が平成7年5月22日東京大学農学部で行われ、以下のことが決定した。

- (1) 平成8年度シンポジウムのテーマは「新しい遺伝資源の創造」とし、対応学会は育種学会、林学会、畜産学会、家禽学会、獣医学会、農芸化学会の6学会とすることに決定。
- (2) 学協会著作権協議会の専門委員会委員を小林(家政)、木庭(育種)が、分配委員会委員を野間(園芸)が、電子複写委員会委員を小野(獣医)がそれぞれ担当し、これら3委員会を統括する委員を白石英彦氏とすることを承認。
- (3) 農学会にFAX設置(03-5800-3851)を承認。農学会との連絡にはFAXを利用して下さいとの由。

今後の学会活動および関連学会開催予定

- (1) 平成8年度日本植物病理学会大会
期日：平成8年4月2日～4日
場所：佐賀大学農学部
- (2) 第3回ウイルス病研究会
期日：平成8年4月5日
場所：九州大学国際ホール
- (3) 土壤微生物研究会1996年度大会
期日：平成8年6月27日(木) 一般講演・特別講演・シンポジウム・総会・懇親会
6月28日(金) 見学会
場所：北海道大学クラーク会館大講堂
特別講演：相馬 暁(北海道立上川農業試験場)
北海道のクリーン農業の現状と課題
シンポジウム：「土壤微生物制御による環境保全型農業への展望」
橋本知義(北海道農業試験場)
寒地農業環境が畑作物根圏細菌群の動態に及ぼす影響
東田修司(北海道立十勝農業試験場)
土壤酵素による生産力評価
角野晶大(北海道立中央農業試験場)

コムギ眼紋病の環境制御による防除

田中文夫(北海道立十勝農業試験場)

ジャガイモそうか病の病原菌と環境制御による防除にむけて

見学会：栗山町コムギ病害、夕張市メロン病害ほか

参加費：研究会員 2,500円

一般参加者 3,500円

懇親会費：6,000円

見学会費：5,000円(昼食代を含む)

お問い合わせは大会事務局まで：

〒060 札幌市北区北9条西9丁目

北海道大学農学部植物寄生病学講座内

土壤微生物研究会1996年度大会事務局

TEL. 011-706-3829, FAX. 011-706-4938

(4) 第18回土壤伝染病談話会

期日：平成8年11月14日(木)～15日(金)

場所：千葉大学西千葉キャンパス

運営委員長：千葉大学園芸学部 平野和弥

(5) 他学会の大会

・日本昆虫学会第56回大会、第40回日本応用動物昆虫学会大会合同大会

期日：平成8年3月27～29日

場所：山口大学

・日本農薬学会第21回大会

期日：平成8年3月25～27日

場所：琉球大学農学部

(6) 樹木医学研究会の発足

農林水産省林野庁の事業の一環である樹木医制度が発足して5年目を迎え、樹木の診断と治療に対する関心が高まってきたこのごろ、実際の診断・治療に当たる技術者(樹木医)と、その技術を支える樹病・昆虫・土壌・樹木生理など基礎部門の研究者とが、互いに勉強と情報交換の場となる研究会を作ろう、との声があつて、平成7年9月4日(月)の午後、東京農業大学経堂キャンパスにおいて、樹木医学研究会の設立総会が開催された。

総会においては、設立発起人会と設立準備事務局によって準備された会則案、初年度活動方針案、第1期役員案が提案され、それぞれ満場一致で承認され、いよいよ研究会活動がスタートすることになった。

会長には松井光瑤(大日本山林会、土壌学)、副会長には吉田光男(日本樹木医会)および鈴木和夫(東京大学農学部、樹病学)、監事には山田房男(前日本大学農獣医学部、森林昆虫学)および山本三郎(日本樹木医会)が就任し、ほかに理事12名、評議員28名が選任された。

総会のあと“樹木医学とは何か、その目指すもの”と題するシンポジウムが開かれた。話題提供者と講演表題は次のとおりであった。

鈴木和夫 (東京大学農学部) : 樹木医学とは何か

伊藤進一郎 (森林総合研究所東北支所) : 樹木病害研究会の来た道と最近の樹木病害

吉田光男 (日本樹木医会) : 樹木医の役割とその活動

濱谷稔夫 (東京農業大学農学部) : 林学・造園学から見た樹木医学

話題提供のあと、パネラーに中野直枝 (日本緑化センター) が加わり質疑応答が行われた。熱心な討議のあまり、シンポジウムは2時間の予定が3時間となり、午後6時に閉幕、東京農大グリーンアカデミーにおける懇親会へと討論の場を移し、8時過ぎ、樹木医学研究会設立総会のすべての行事を終了した。

なお、事務局は東京大学農学部森林植物学教室(〒113 東京都文京区弥生1-1-1, TEL. 03-3812-2111 内線5226, FAX. 03-5802-2958) におかれます。会費は正会員5,000円、学生会員2,000円です。関心を持たれる日本植物病理学会員の研究会への加入をお待ちしています。(小林享夫)

国際植物病理学会および植物病理学会関連国際会議の報告と案内

(1) ISPP 便り

ISPPでは1995年度からsubject area committeeが主催する国際集會やトレーニングコースに対して補助金(年額約3500ポンド)を出すことになった。その詳細についてはいずれISPPニュースレターに掲載の予定。

(2) 関連国際学会の開催案内

- ・9th International Symposium on Virus Diseases of Ornamentals : Herzlia, Israel, 17-22 March 1996.
- ・International Workshop on Biological Control of Plant Diseases : Beijing, China, 22-27 May 1996.
- ・8th International Congress on Molecular Plant-Microbe Interactions : Knoxville, USA, 14-19 July 1996.
- ・International Working Group on Legume Viruses : Cairo, Egypt, 18-19 August 1996.
- ・9th International Conference on Plant Pathogenic Bacteria : Madras, India, 26-29 August 1996.

会員の動静

(1) 大学関係 (平成7年11月1日現在)

1) 人事

- | | | | | |
|------|------|-----|-----------------|-----|
| 白子幸男 | H7.8 | 東京大 | アジア生物資源環境研究センター | 教授 |
| 米山勝美 | H7.4 | 明治大 | 農学部 植物病理学研究室 | 教授 |
| 兼平 勉 | H7.4 | 日本大 | 農獣医学部 植物病理学研究室 | 助教授 |

2) 学位取得者 (課程博士)

- | | | | | |
|------|------|-----|------|---|
| 池川朋代 | H7.9 | 神戸大 | 農学博士 | Studies of locally-induced resistance of cell wall-degrading enzymes in oat leaves infected with <i>Puccinia coronata</i> f.sp. <i>avenae</i> |
|------|------|-----|------|---|

- | | | | | |
|------|-------|-----|------|---------------------------|
| 藤田和代 | H7.10 | 島根大 | 農学博士 | イネいもち病菌の生成する感染誘導因子の病理学的研究 |
|------|-------|-----|------|---------------------------|

3) 海外長期出張者

- | | | | | |
|------|-----|------------|-----|-----------|
| 雨宮良幹 | 千葉大 | H7.12-H8.9 | USA | ワシントン州立大学 |
|------|-----|------------|-----|-----------|

(2) 農水省研究機関関係 (H7.8~H7.10)

人事

・室長以上

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------------|
| 稲葉忠興 | H7.8 | 北海道農試 | 企画連絡室長 |
| 大津善弘 | H7.8 | 果樹試 | 保護部病害第2研究室長 |
| 本田要八郎 | H7.10 | 農研セ | ウイルス病診断研究室長 |
| 岩崎真人 | H7.10 | 北海道農試 | ウイルス病研究室長 |
| 野田千代一 | H7.10 | 国際農研セ | 沖縄支所 作物保護研究室長 |

・新規採用

- | | | | |
|------|-------|------|------------|
| 足立嘉彦 | H7.10 | 果樹試 | 保護部病害第1研 |
| 山田憲吾 | H7.10 | 野・茶試 | 環境部病害第2研 |
| 善林 薫 | H7.10 | 東北農試 | 水田利用部水田病害研 |

(3) 都道府県関係 (管理職等)

人事

- | | | | |
|-------|------|----------|--------|
| 梅原吉広 | H7.4 | 富山農技センター | 企画管理部長 |
| 田上征夫 | H7.4 | 三重農技センター | 総括研究員 |
| 土屋貞夫 | H7.6 | 北海道立北見農試 | 場長 |
| 児玉不二雄 | H7.6 | 北海道立中央農試 | 病虫部長 |

各種出版物案内

(1) 学会出版物

日本植物病理学会編：植物病理学事典，養賢堂，pp. 1220, 1995, ¥28,840

(2) 会員の出版物

村上浩紀，緒方靖哉，松山宣明，河原畑勇，矢野友紀編著：生物生産と生体防御，コロナ社，pp. 349, 1995, ¥4,532

留学印象記

昨年の春から1年4カ月間，アメリカ New Jersey 州にある Rutgers 大学，Waksman 研究所の Klessig 博士の研究室に留学する機会を与えられた。Klessig 博士はこれまでアデノウイルスの遺伝子発現について多くの業績を挙げ

てこられたが、現在では主に病害抵抗性発現におけるサリチル酸を介したシグナル伝達機構について研究を進めている。研究所の Associate Director を務められる傍ら、10 数名のポスドクを抱える大研究室のボスとして多忙な毎日を過ごされている。研究室は一般的な日本の大学の研究室に比べると広く、機器類は効率的に配置され複数のポスドクが同時に同じ実験を行っても十分なほどの台数がある。一方、蛍光シーケンサーなどの最先端機械は日本ほど充実しておらず、今や研究設備の点で日本は先進国であることを実感した。大勢のポスドクが毎日顔をつき合わせて仕事をしているわけであるが、毎週金曜日に開かれるビールパーティー (Happy Hour と呼んでいる) のせいもあってかコミュニケーションは良好である。しかし、皆、質の高い仕事をして職を得ようとしている点ではライバルでもあることが研究室の活性を高める一つの要因になっているのかもしれない。厳しい状況の中で研究を続ける彼らの姿に、アメリカで生き抜いていくたくましさを感じるとともに、そのような研究環境が独創的な研究を生み出していく素地を作っているのかもしれないと感じた。私にとって留学で得られた体験は、予想をはるかに上回るものであった。また、植物と病原体相互作用の分子レベルでの研究が盛んな時期に海外を見ることができたことは幸運であったと思う。留学を通じて得た様々なことを今後の研究生活に役立てていきたいと強く感じている。末筆になりましたが、留学の機会を与えて下さいました東京農工大学細川大二郎先生、寺岡徹先生、また有益な助言をいただいた東北大学江原淑夫先生、羽柴輝良先生にこの場をかりて厚くお礼申し上げます。
(東京農工大学農学部 高橋英樹)

学会事務局コーナー

学会費の自動振込化

当学会は平成8年度分の会費納入から自動振込制度を導入いたしました。平成7年10月現在で322人の申込みがありました。ご協力に感謝いたします。申込み会員の会費引落としては12月6日を予定しております。本制度は学会事務の効率化と会員各位の便宜を図るのが目的であり、農薬学会は前年から、また、応用動物昆虫学会と病理学会は今年から本制度を取り入れました。10月以降も引き続き次年度の会費納入にむけて自動振込の申込みを受付けます。1人

でも多くお申込み下さい。新たな申込みや申込み会員の口座変更等には「預金口座振替依頼書」が必要です。入用の場合は学会事務局までお申し出下さい。

学会ニュース継続のお知らせ

平成7年11月25日に開催された評議員会で、学会ニュース発行の継続が決まりました。試行は年2回の発行で2年間ということでしたが、試行中に発行されたニュースは1~3号でした。評議員会では、幹事会が提案したニュース継続の案を異議なく認めるということで継続が決まりました。ただし、いつまで継続するかは特に議論となりませんでした。以上の結果、今後引き続き年2回、学会報の1号と4号にニュースが掲載されますので、会員の皆様のご支援をお願いいたします。

情報提供および投稿のお願い

学会ニュースでは会員の動静、著作、植物病理学関連の会合やシンポジウム等に関する情報を広く学会員に提供したいと考えていますので、情報をご提供下さい。また、学会に関するご意見(400字以内)や海外留学の印象等(800字以内)もご投稿下さい。

情報の提供や投稿先:

〒170 東京都豊島区駒込1-43-11 植防ビル
日本植物病理学会事務局 ニュース編集委員会
TEL. 03-3943-6021

編集後記

学会ニュースの継続が評議員会で決まりました。試行だけに終わるのではないかと一抹の危惧もありましたが、継続が決まり、2年間ニュース編集に携わった者としてほっといたしました。今後は学会の正式の委員会としてニュース編集委員会が発足し、より充実したニュースを会員の皆様にお届けできるものと思えます。学会も優秀な新たなニュース編集委員を考慮しておりますのでご期待下さい。試行中のニュースの編集委員を代表して、2年間の会員の皆様のご支援に心からお礼申し上げます。(土崎常男)